

【QLife痛み】

痛み治療における かかりつけ薬局と病歴・薬歴管理についての 患者調査 結果報告書

平成25年9月30日

株式会社QLife(キューライフ)

調査背景

厚生労働省が発表した「平成23年受療調査」(<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jyuryo/11/dl/kakutei-kekka-gaiyo.pdf>)によれば、同一施設においてでさえ、外来患者の8人に1人が複数科を受診していることから、「複数施設(科目)を受診している」患者が少なくないことが推察される。そこで、リスクとして考えられるのが、病歴や薬歴情報の管理・活用不足による、いわゆる「飲み合わせの副作用」だ。現状、一部の地域を除いて、施設をまたいでの患者の病歴や薬歴情報の共有は行われておらず、患者の持つ「お薬手帳」が拠り所となっている。QLifeでは、痛みの治療で整形外科を受診している患者を対象に「かかりつけ薬局」と「薬歴管理」の実態についてアンケートを行った。

主な結論

今回の調査で明らかになったのが、多くの患者にとって、薬歴管理が「自身に任されている」ことだ。かかりつけ薬局「ある」と7割の患者が回答。そのうちの半数が「1か所」としており、約35%の患者が「1か所のかかりつけ薬局を持っている」こととなるが、逆の見方では「約3人に2人が特定のかかりつけ薬局を持っていない」と見ることもできる。地域内での患者データの連携が進んでいない現状を鑑みると、薬歴だけでなく、病歴もが「患者自身に任されている」ことは容易に推測できる。こうした状況で起こりうる「薬の飲み合わせによる相互作用」を防ぐためには、患者が「お薬手帳」などの薬歴管理ツールの重要性を知り、医療機関や薬局訪問時にそれまでの病歴や薬歴を積極的に情報提供していくことが重要である。

結論の概要

- 1) かかりつけの薬局「ある」患者は7割。うち、半数が「1か所」
- 2) 病歴や薬歴を「すべて詳細に履歴を残している」55%、「履歴を残していない」13%
- 3) 病歴や薬歴を、「すべて伝えている」49%、伝えない人の理由は「大丈夫」「重要性感じない」「面倒」など
- 4) 約3人に1人が「薬の飲み合わせによる副作用や健康被害についての情報」に1人に不足感

【調査実施概要】

▼調査主体

株式会社QLife(キューライフ)

▼実施概要

- (1) 調査対象: 首・肩・腰・膝の痛みで過去1年以内に整形外科を受診した患者
- (2) 有効回収数: 327人
- (3) 調査方法: インターネット調査
- (4) 調査時期: 2013/8/19~2013/8/26

▼有効回答者の属性

(1) 年代:

年代	男性	女性	n
20代	2	2	4
30代	14	18	32
40代	61	37	98
50代	67	28	95
60代	53	10	63
70代	29	2	31
80代以上	4	0	4
総計	230	97	327

年代	男性	女性	%
40代	0.9%	2.1%	1.2%
50代	6.1%	18.6%	9.8%
50代	26.5%	38.1%	30.0%
60代	29.1%	28.9%	29.1%
70代	23.0%	10.3%	19.3%
70代	12.6%	2.1%	9.5%
80代以上	1.7%	0.0%	1.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%

(2) 居住地:

北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県
7.0%	0.9%	0.3%	2.1%	0.6%	0.6%	0.3%	1.5%	0.9%	1.8%
埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県
7.3%	7.6%	19.3%	10.7%	1.2%	0.6%	0.9%	0.3%	0.6%	0.9%
岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
0.3%	2.4%	5.5%	0.6%	0.3%	1.8%	5.2%	5.5%	0.6%	0.9%
鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県
0.0%	0.0%	0.6%	1.8%	1.2%	0.6%	0.9%	0.9%	0.0%	3.1%
佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県			
0.0%	0.3%	0.0%	0.3%	0.3%	0.3%	0.6%			

▼有効回答者の属性(続き)
(3)処方薬剤

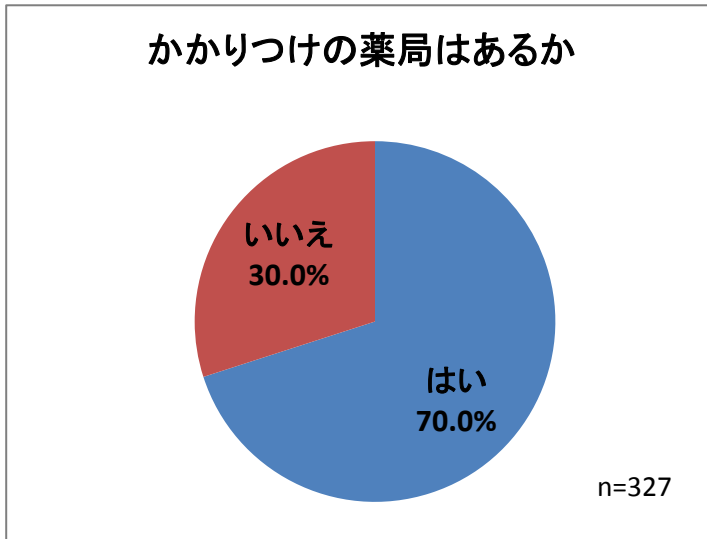
	n	%
ロキソニン	244	82.7%
セレコックス	17	5.8%
ボルタレン	65	22.0%
ペオン	1	0.3%
ハイベン	5	1.7%
モービック	1	0.3%
ロルカム	7	2.4%
ボンタール	10	3.4%
ブルフェン	4	1.4%
ソレトン	4	1.4%
その他	25	8.5%
小計	295	129.8%
薬剤名がわからない(排他)	32	9.8%
総計	327	

【Q1】かかりつけの薬局はありますか。

7割の患者がかかりつけの薬局が「ある」と回答した。

n=327

	n	%
はい	229	70.0%
いいえ	98	30.0%
総計	327	100.0%

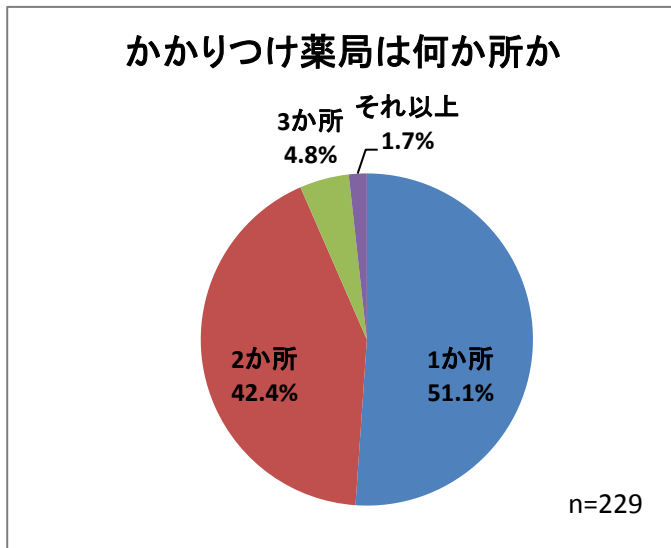


【Q2】(Q1で「はい」と回答した患者対象)かかりつけの薬局は何か所ありますか。

「1か所」と回答した患者が51.1%、「2か所」が42.4%となった。

n=229

	n	%
1か所	117	51.1%
2か所	97	42.4%
3か所	11	4.8%
それ以上	4	1.7%
総計	229	100.0%

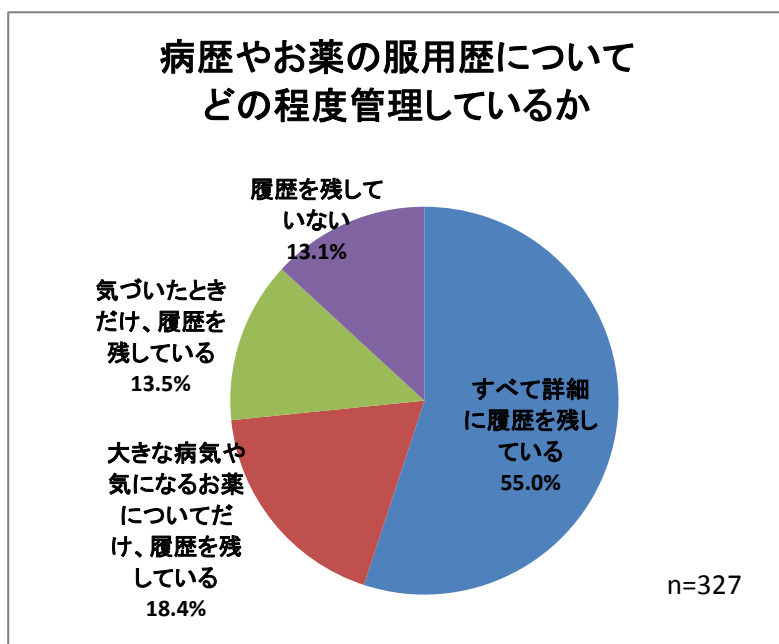


【Q3】病歴やお薬の服用歴について、どの程度管理していますか。

病歴や薬歴の管理について、55%の患者が「すべて詳細に履歴を残している」と回答した一方、「履歴を残していない」とした患者も13.1%いた。

n=327

	n	%
すべて詳細に履歴を残している	180	55.0%
大きな病気や気になるお薬についてだけ、履歴を残している	60	18.4%
気づいたときだけ、履歴を残している	44	13.5%
履歴を残していない	43	13.1%
総計	327	100.0%



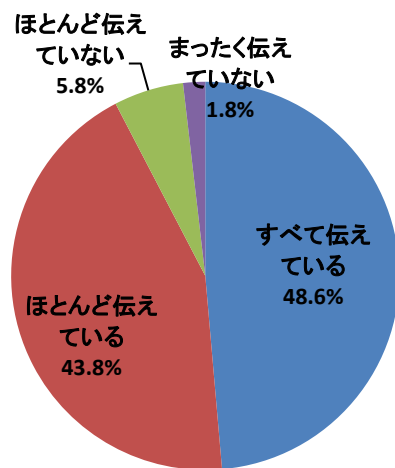
【Q4】医療機関や薬局の初診時に、病歴やお薬の服用状況についてどの程度詳細に伝えていきますか。

初診時の病歴や薬歴の記載について、「すべて伝えている」と回答した患者は半分弱にとどまる。

n=327

	n	%
すべて伝えている	159	48.6%
ほとんど伝えている	143	43.8%
ほとんど伝えていない	19	5.8%
まったく伝えていない	6	1.8%
総計	327	100.0%

医療機関・薬局初回訪問時に病歴やお薬の服用状況をどの程度伝えているか



n=327

【Q5】(Q4で「すべて伝えている」以外を回答した患者対象)

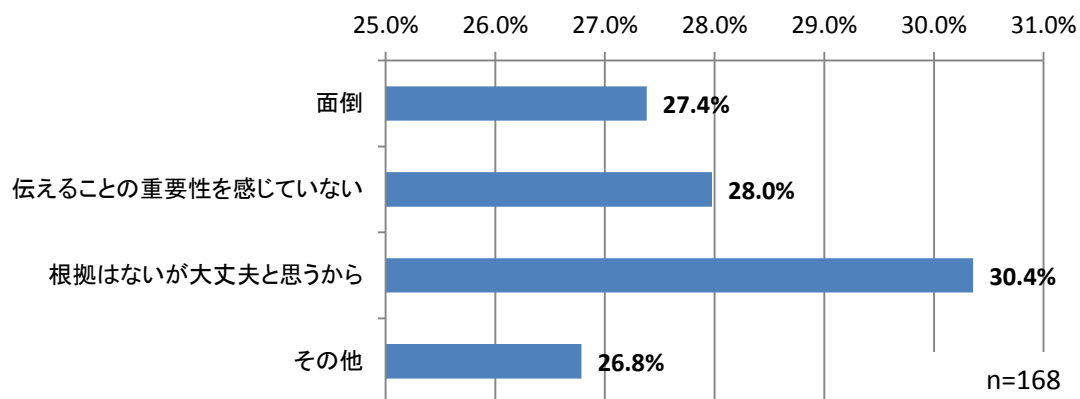
医療機関や薬局で、すべての病歴やお薬の服用状況は伝えていないとのことですが、理由を教えてください。
(複数回答)

病歴、薬歴を伝えていない理由として、「根拠がないが大丈夫と思うから」「伝えることの重要性を感じていない」「面倒」をそれぞれ約3割の患者が挙げた。その他の意見としては、「病院間で連携が取れている」と仕組みの担保ができていないケースがある一方、「聞かれていないから」「専門用語ばかりで難しい」といった意見も多く見られた。

n=168

	n	%
面倒	46	27.4%
伝えることの重要性を感じていない	47	28.0%
根拠はないが大丈夫と思うから	51	30.4%
その他	45	26.8%
小計	189	112.5%
総計	168	

すべての病歴やお薬の服用状況を伝えていない理由(複数回答)



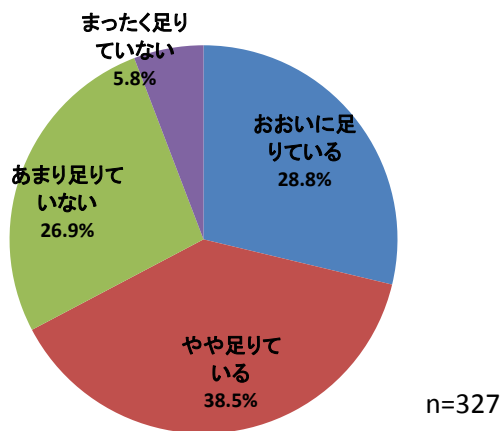
【Q6】「薬の飲み合わせによる副作用や健康被害についての情報」は、あなたが調べられる範囲で、充分にあると思いますか。

「おおいに足りている」「やや足りている」と回答した患者の割合の合計は約65%にとどまり、3人に1人は情報の不足感を感じている。

n=327

	n	%
おおいに足りている	94	28.8%
やや足りている	126	38.5%
あまり足りていない	88	26.9%
まったく足りていない	19	5.8%
総計	327	100.0%

「薬の飲み合わせによる副作用や健康被害についての情報」は充分にあると思うか



本調査に関するお問い合わせ先:

株式会社QLife 広報担当 田中 智貴
TEL : 03-3500-3235 / E-mail : info@qlife.co.jp

<株式会社QLifeの会社概要>

会社名 : 株式会社QLife(キューライフ)
所在地 : 〒100-0014 東京都千代田区永田町2-13-1 ボッシュビル7F
代表者 : 代表取締役 山内善行
設立日 : 2006年(平成18年)11月17日
事業内容 : 健康・医療分野の広告メディア事業ならびにマーケティング事業
企業理念 : 医療と生活者の距離を縮める
サイト理念 : 感動をシェアしよう!
URL : <http://www.qlife.co.jp/>
